

# 大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 山形大学 取組概要

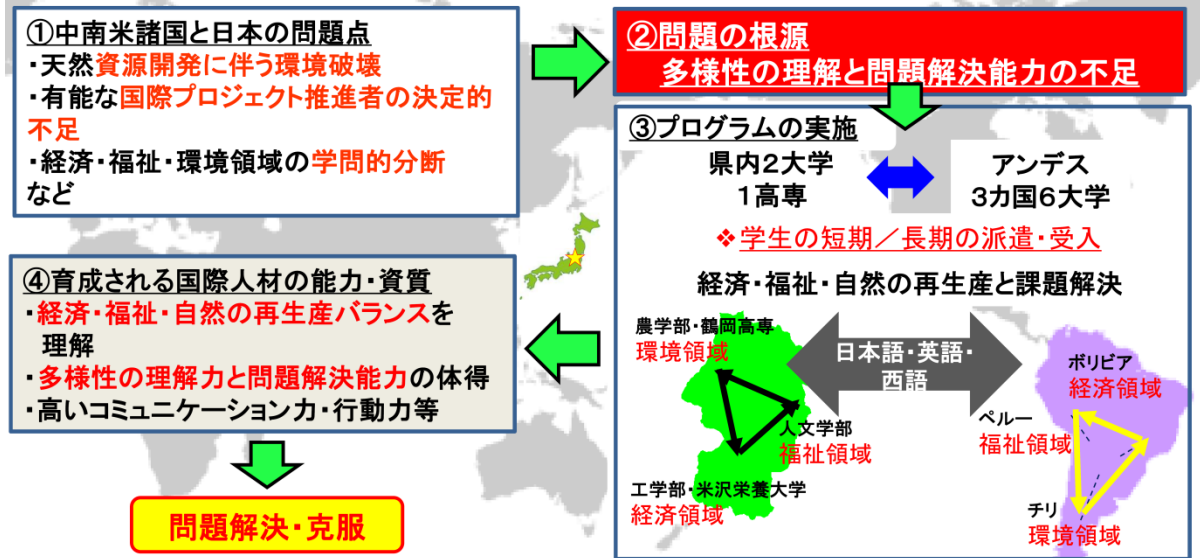
【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

## 【事業の概要】

本事業は、山形大学のこれまでのアンデス諸国における高い研究と教育実績・経験を基礎として、山形とアンデス諸国の架け橋となる人材育成を行う。山形県内の3つの教育機関(山形大学、米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)と、ペルーの4大学(ペルー・カトリカ大学、国立工科大学、国立サンマルコス大学、ラ・モリーナ国立農業大学)、ボリビアの1大学(サンアンドレス・ボリビア国立大学)、チリの1大学(国立タルカ大学)との間で、短期・長期交換留学(日本人学生とアンデス諸国の学生の相互交流)、アンデス諸国と日本における語学教育(日本語とスペイン語)、就職支援、異文化理解などを実施する。日本企業に就職を希望する留学生に対しては、山形大学の高い実績と経験を活かして特に県内企業への就職を促す。

## 問題解決力を身に付ける教育プログラム



## 【交流プログラムの概要】

短期受入学生は日本人学生と合同研修を行い、日本文化や日本ビジネス、工業技術、環境保全、産業開発等について、3カ国語(西・英・日)で学習する。長期受入学生は、その他に企業就職レベルの日本語を学び、日本企業に1~2週間程度インターンシップを行う。短期派遣学生は、アンデス諸国における資源開発の現状や問題点、日系社会への理解、環境保全への対応等の教育を行う。またこれまでの山形大学の研究フィールドにおいて実践型学習を行う。長期派遣では、アンデス諸国の参画校において正規科目の学習と単位修得を行う。

## 【本事業で養成する人材像】

経済・福祉・自然の再生産に関するバランスが取れ、多様性を理解し、3カ国語(日本語・英語・スペイン語)の運用能力とコミュニケーション力に長けた人材。また行動力とバイタリティに溢れ、資源開発と国際協力活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮してプロジェクトを企画・実施できるブリッジ人材。

## 【本事業の特徴】

アンデス諸国で長年、研究・教育を実施してきたフィールドを、日本人学生の派遣時にそのまま学習・研修の場として活用できることならびに留学生の受入れに関して各学部(人文学部(山形市)、工学部(米沢市)、農学部(鶴岡市))の学問的特長や資源を活用することで、多様性の理解と問題解決力を実践型で学び、高いコミュニケーション力と行動力を体得する。

## 【交流予定人数】

	H27									H28									H29									
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe		A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe		A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe		
学生の派遣		8		8				8		8		8					8		13		12					14		
学生の受入		1		1				3		2		2					4		2		2					8		
	H30									H31									短期派遣では、ボリビア、チリ、ペルーの3カ国において研修を実施することから表の派遣人数は延数を表すものではない。									
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe		A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe											
学生の派遣		13		12				14		13		12					14											
学生の受入		2		2				8		2		2					8											

A: アルゼンチン Bo: ボリビア Br: ブラジル Ch: チリ Co: コロンビア M: メキシコ Pa: パナマ Pe: ペルー

# 1. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈ナスカ研究所における研修〉



〈チリの木材産業に関する研修〉

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- 日本人学生の派遣  
長期派遣としてペルーに2名を、短期派遣として南米3カ国に13名を派遣した。
- 外国人留学生の受入  
長期留学生としてペルーから1名を受け入れた。

〈中南米版〉

	H27															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		8		8				8		13		13				15
学生の受入		1		1				3								1

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

学生の短期派遣に関しては、書類選考と面接試験により28名の応募者のなかから、学業成績、語学力、学習意欲を基準にして13名の優秀な派遣学生を決定した。山形大学におけるスペイン語教育、南米3カ国での日本語基礎教育も開始した。ペルーのカトリカ大学との間で、ダブルディグリー制度構築のための準備協定書を締結した。



〈サンアンドレス大学における学生交流〉

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

プログラムのホームページを日本語、英語、スペイン語の3カ国語で開設・設置することにより、本プログラムに関する情報に学生がアクセスしやすい体制を整えた。またペルー、ボリビア、チリの協定大学に日本語教員を配置し、広報・教育体制を強化した。ペルーのサテライトオフィスに南米側のコーディネーターとして常駐職員を配置し、3か国間の連携を強化して事業を円滑に推進できるようにした。短期派遣では学生選抜後に派遣国事情、治安・安全などに関する事前学習とスペイン語教育を実施した。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開、成果の普及

短期派遣の研修成果を、ホームページを通じて3カ国語(日本語、英語、スペイン語)でリアルタイムに情報発信を行った。短期派遣終了後に山形大学の3つのキャンパスにおいて事後報告会を開催し、学生と教職員が参加した。山形大学の第3期中期目標・中期計画に本プログラムの取り組みと推進が盛り込まれ、事業を通じて大学全体の国際化を加速することが明文化された。

## ■ 特記すべき事項等

平成28年度は短期派遣と短期受入れの合計数を増やすとともに、プログラムの周知と広報を強化することでプログラムに興味・関心のある学生を増やす。

## 2. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈2016年7月短期受入・米沢〉

短期・長期とも派遣・受入で計画を上回る合計21名の学生が参加した。日本ではスペイン語講座、アンデス諸国では山形大学主催の日本語講座を開設し、それぞれ1年間の語学教育を修了した者が短期プログラムに参加する体制が整った。カトリカ大学との間ではダブル・ディグリー制度構築に向けての準備協定書を締結し、協議を開始した。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

カトリカ大学へ長期2名の他、2-3月にアンデス3か国に短期6名を派遣して協定6校全てと交流活動を行った。

#### ○ 外国人留学生の受入

カトリカ大学から長期1名の他、7-8月にアンデス3大学から短期12名を受け入れた。平成29年度は対象を協定6校全てに拡大、当初半年の予定で来日した長期1名は期間を1年に延長した。

〈中南米版〉

	H28															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		8		8				8		6		6				8
学生の受入		2		2				4		3		4				7

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

9月にペルー・サテライト・オフィスの開所式をカトリカ大学で行い、南米全体の基本的なとりまとめ・調整を現地で行えるようになった。1月には協定6大学の担当者会議を山形で開催し、プログラムの方向性につき議論した。受入学生選抜ではTV会議システムも用いて面接試験を実施した。



〈2017年1月DTP担当者会議・山形〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

全ての長期受入学生に対して日本語教育の他、インターンシップを実施した。また日本企業への就職を希望する者には、ビジネス関連科目を開講している。派遣学生に対してはスペイン語教育の他、現地の状況を説明する事前学習会を行った。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

#### 情報の公開、成果の普及

公募により3か国語に対応した推進室職員を6月から採用し、10月からは新たにスペイン語講師を採用した。プログラムのホームページで日英西3か国語による情報発信を行い、海外からの問い合わせも増加した。また11月の教職員出張時にはパンフレットを使用して宣伝・普及活動を行った。

### ■ 特記すべき事項等

事前の語学学習・事後報告会・受入参加といったほぼ1年間にわたる活動を短期留学の条件とすることで、交流が循環的に拡大している。また短期経験者の中から次のステップとして長期を希望する者が出てきている。

### 3. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

#### ■ 交流プログラムの実施状況



(2018年2月短期派遣・ペルー・ナスカ)

派遣13名(長期2名、短期11名)・受入13名(長期3名、短期10名)計26名の交換留学を実施した。学内外でプログラムが認知されるにともない、申請者数は増加しており、参加者の日西の語学力・留学先への長期的な関心も高まっている。長期学生は留学先で言語学習を継続し、専門科目の単位を修得した他、現地で開講しているスペイン語・日本語講座に補佐として参加した。また長期受入では帰国前に山形県内企業で全員がインターンシップを経験した。短期派遣ではペルーとボリビアで現地学生と合宿型研修を行い、短期受入では日本人学生が一部計画に作成段階から参与した。

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

##### ○ 日本人学生の派遣

8月よりタルカ大学に1名(地域教育文化)、3月からカトリカ大学に1名(人文社会)をそれぞれ1年の予定で派遣している。2月22日～3月14日の短期研修では国内参画3校11名が南米3カ国6協定校を訪問し、現地で研修・交流活動を行った。

##### ○ 外国人学生の受入

4月よりカトリカ大学から2名(工学部)、10月よりサンマルコス大学から1名(人文社会科学部)を半年～1年受け入れた。7月31日～8月14日の短期研修には6協定校全てから10名が参加し、山形大学3キャンパスと国内参画2校を訪問し、研修・交流活動を行った。

	H29															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		13		12				14		11		12				12
学生の受入		2		2				8		2		2				9

#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

参加条件としての日本語・スペイン語の履修条件を強化した。11月ペルー・リマで協定5校教職員と「第2回担当者会議」を行った(チリは別途訪問)。2月ボリビア・チリの日本語教員をペルーに召集して「日本語教師トレーニング・セミナー」を開催した。ペルー・カトリカ大学との間では考古学・人類学分野でダブル・ディグリー制度を確立すべく、協議を進めている。



(2018年2月)日本語集中講座・ペルー・リマ

#### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

ペルー・カトリカ大学で開講している日本語講座で新たに他のペルー協定3校の学生も受入れた。サテライトオフィスでは日本留学前の指導を行うとともに、南米学生との個別相談にも応じている。同オフィスは派遣学生への支援窓口としても機能しており、学生ビザの制度変更時にはペルー入国管理局との折衝を行った。スペイン語は山形大学人文社会科学部の正式科目となり、短期派遣とともに単位化され、平成30年度からは基盤教育科目としても開講した。

#### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

平成29年度に人文社会科学部に新設されたグローバル・スタディーズ・コースから多くの参加者が出ており、短期派遣後の発表会を通じて、特に同コースで南米への関心が高まっている。派遣事業周知のためパンフレット、留学経験者へのインタビューを中心としたプロモーションビデオを制作した。長期受入学生の「花笠まつり」参加の様子はNHKニュースで放映された。8月には短期受入のタイミングに合わせて2年間の成果発表会を行い、学内外から約50名が出席した。

#### ■ 特記すべき事項等

長期派遣2名のうち1名は平成27年度短期派遣学生、また平成29年度短期受入学生10名のうち、2～3名が平成30年度長期受入学生として来日予定で、「短期から長期へ」の流れが定着しつつある。平成30年度スペイン語受講生は40名強と昨年から倍増した。南米学生は日本留学後も日本語学習を継続し、JLPT合格者数は増加した。長期派遣・受入においてカトリカ大学、サンマルコス大学以外(タルカ大学、ラ・モリーナ大学)とも交流が活発化している。

## 4. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈2018年8月短期受入・米沢栄養大学〉

派遣16名・受入13名で計29名の交換留学を実施した。

長期派遣は1年間現地でスペイン語の学習を継続するとともに、専門科目を履修し単位を修得した。派遣学生は現地で山形大学が開講している日本語講座に補佐として参加した。短期派遣は南米3カ国を3週間で訪問し、協定6校で講義・交流活動を行った他、日本企業・国際協力機で研修を行った。

長期受入は1年間日本語学習とともに専門科目を履修し単位を修得した。受入学生はスペイン語授業に補佐として参加し、また帰国前に県内でインターンシップを経験した。短期受入では2週間の日程で山形大学3キャンパスと米沢栄養大学・鶴岡高専での講義・交流活動、県内企業・公共施設での研修を行った。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

長期は人文社会科学2・工学1の計3名をカトリカ大学に1年間派遣、短期は2月23日～3月15日に13名の学生を派遣、現地では協定校学生40名以上が交流活動に参加した。

#### ○ 外国人学生の受入

長期は農学部1(ラ・モリーナ国立農業大学)、人文社会科学部1(サンマルコス大学)、工学部1(タルカ大学)計3名の実績、短期は7月31日～8月12日に10名の南米学生を受入れた。

〈中南米版〉

	H30															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		13		12				14		13		13				16
学生の受入		2		2				8		1		3				9

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

派遣・受入とも志願者が増加し、選抜学生のレベルが向上した。カトリカ大学大学院アンデス研究専攻科と山形大学人文社会科学部の間ではダブル・ディグリー締結を目指し協議中で、3月に現地で打合せを行った。補助金終了後のサテライトオフィス、各国協定校での日本語講座の継続については経費負担を含めて協議・検討中である。



〈2019年2月短期派遣・ペルー・リマ〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

ペルーにおいては9～11月に日本関連授業(カトリカ大学のみ)、2月に集中講座を開講して日本語授業開始、7～8月短期受入、11月日本語講座修了のサイクルが定着した。チリではペルー・サテライトオフィスからも出張支援して1月に集中講義を実施した。長期受入学生にはシェアハウスも利用できるような制度を整えた。

山形大学のスペイン語講座は本年度より基盤教育科目としても開講し、夏休みを利用して会話集中講義も行った。長期派遣では教職員がリマ市内のホームステイ先状況を調査し、安全面を重視して学生に情報提供を行った。派遣・受入学生に対して留学期間中スペイン語に対応した電子辞書を貸与している。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

交流を通して日本人学生の間で南米・スペイン語への関心が高まり、派遣志望者増加につながった。ホームページでは短期プログラムの実施状況やその発表会の報告の他、長期留学生の体験記を掲載して活動内容を積極的に公開するとともに、後進の留学志望者の参考に供した。学内でスペイン語教育が普及し、人文社会科学部ではメキシコのグワナファト大学と新規に協定交渉を開始した。学内で当派遣プログラムの認知度向上に伴い、学生の留学全般に対する心理的障壁が減少して他地域への留学希望者増加につながった。

### ■ 特記すべき事項等

スペイン語講座の基盤教育への開放に伴い、各学部からより多くの1年生が短期派遣に参加するようになった。南米協定校でプログラムが定着し認知度が深まったことで、南米協定校との国際交流の財源安定化のために費用の個人負担割合を高めたにもかかわらず日本留希望者は増加している。2016年度に短期派遣プログラムに参加後2017年度にチリに長期留学した地域教育文化学部の学生は、JICAインターンプログラムに応募、採用され1～2月にポリビア事務所で研修を行った。農学部の長期受入学生が「日本語スピーチコンテスト」で大賞を獲得し、そのニュースがスピーチ原稿とともに地元紙に掲載された。

## 5. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

### ■ 交流プログラムの実施状況



〈日本からの短期派遣でのナスカ地上絵の見学〉

長期では4月にラ・モリーナ国立農業大学より農学部で1名、ペルー・カトリカ大学より人文社会科学部で1名、9月にペルー・カトリカ大学より工学部で1名の計3名を受け入れた。またペルー・カトリカ大学へ、8月に人文社会科学部1名、3月に地域教育文化学部1名を派遣した。短期では8月に南米6協定校より10名の学生を2週間受入れ山形県内で研修・交流活動を行い、2～3月に山形大学・鶴岡工業高等専門学校・米沢栄養大学より12名を3週間南米に派遣した。ペルー・カトリカ大学アンデス研究院と山形大学人文社会科学部の間では、ダブルディグリー構築に向けて協議を進めている。

### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生の派遣

長期は、人文社会科学部1(8月～2月)、地域教育文化学部1(3月～)の計2名をペルーに派遣、短期は、2～3月に12名の学生(山形大学・鶴岡工業高等専門学校・米沢栄養大学)を3週間南米に派遣した。

#### ○ 外国人学生の受入

長期は、ラ・モリーナ国立農業大学より農学部1名(4月)、ペルー・カトリカ大学より人文社会科学部1名(4月～)、工学部1名(9月～)を受け入れ、短期は、中南米6協定校より10名を2週間(8月)受け入れた。

〈中南米版〉

	R1															
	計画								実績							
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe
学生の派遣		13		12				14		12		12				14
学生の受入		2		2				8		1		1				13

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

2～3月に実施した短期派遣に職員1名が同行、協定校への後継体制の説明を行うとともに、来年度長期受入学生の募集を行った。ペルー・カトリカ大学アンデス研究院と山形大学人文社会科学部の間では、ダブルディグリー構築に向けて協議を進めている。



〈ペルーからの短期受入での学長との懇談会〉

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

サテライトオフィスで受入留学生の選考補助・事前オリエンテーションを行うとともに、長期派遣学生への現地でのサポート・短期派遣の現地での準備を行った。135Hのスペイン語授業を小白川キャンパスで実施、米沢・鶴岡在籍者には集中講義で対応した。2020年度もスペイン語基礎講座を継続し、年間90Hの授業を実施する。後継プログラムを作成し日本学生支援機構の2020年度海外留学支援制度に応募、双方向型4名分が採択され短期研修・研究型7名分が追加採択待Aとなった。DTP運営委員会の業務は、人文社会科学部国際交流委員会が引き継ぐこととなった。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

山形大学での南米学生の長期受け入れを継続することで、欧米アジアに偏りがちな外国人留学生の多様化に貢献した。平成30年度ペルー・カトリカ大学に派遣した2名は帰国後単位の付け替えを行い、4年間で学部課程を修了する見通しである。協定留学を重ねることで、それぞれの大学の授業に関する情報が蓄積され、単位互換がスムーズに進み、学生が履修計画を立てやすくなった。

### ■ 特記すべき事項等

平成30年度工学部で受入れた長期受入学生が地元米沢のNECエンベデッド(株)にて、また令和元年度人文社会科学部で受入れた長期受入学生が9月の山形ドキュメンタリー映画祭にてインターンシップを実施し、日本語でのコミュニケーション能力を高めた。平成30年度ペルー・カトリカ大学に派遣した人文社会科学部学生は留学先において単位を取得するとともに、ラ・ウニオン校の授業に教員補佐として参加した。大学内だけにとどまらず、留学生の交流活動の幅が拡大した。